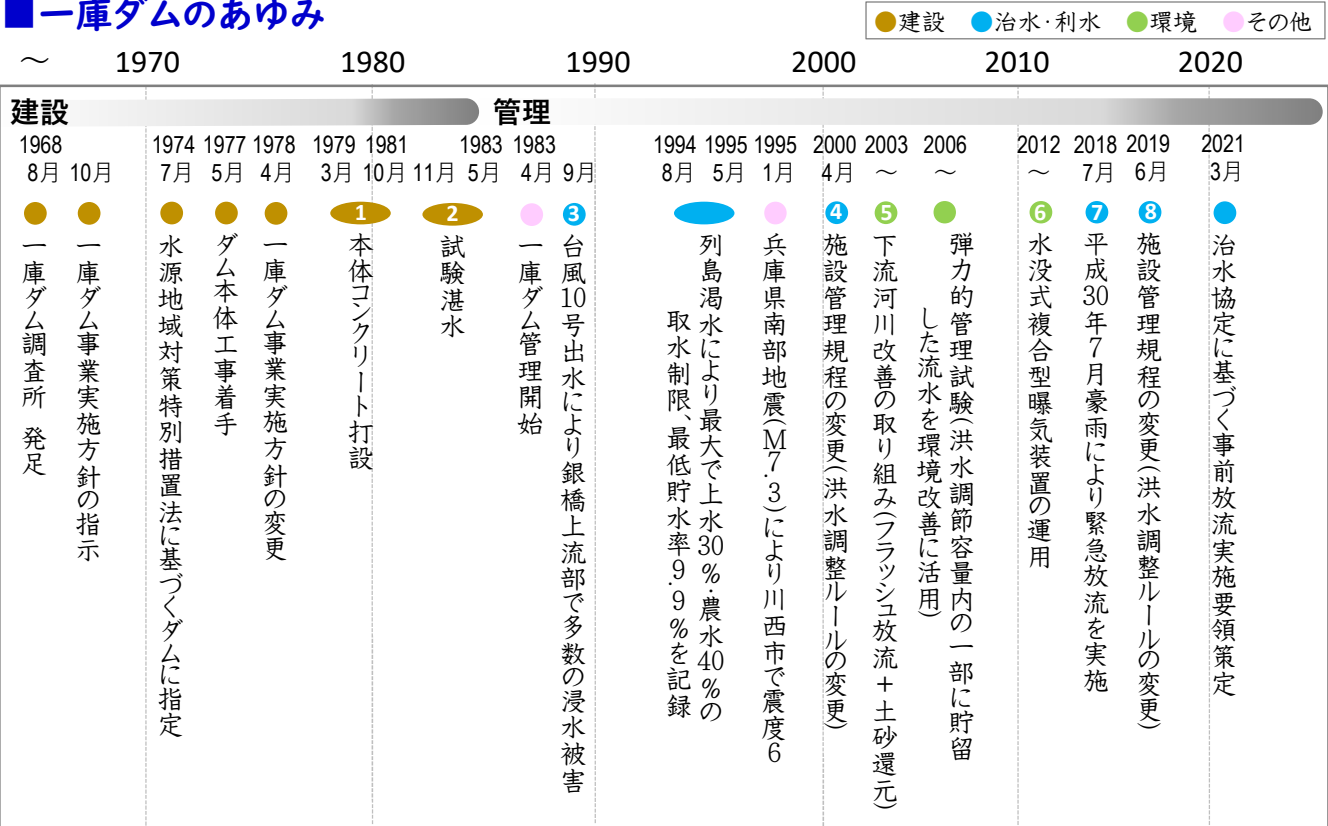






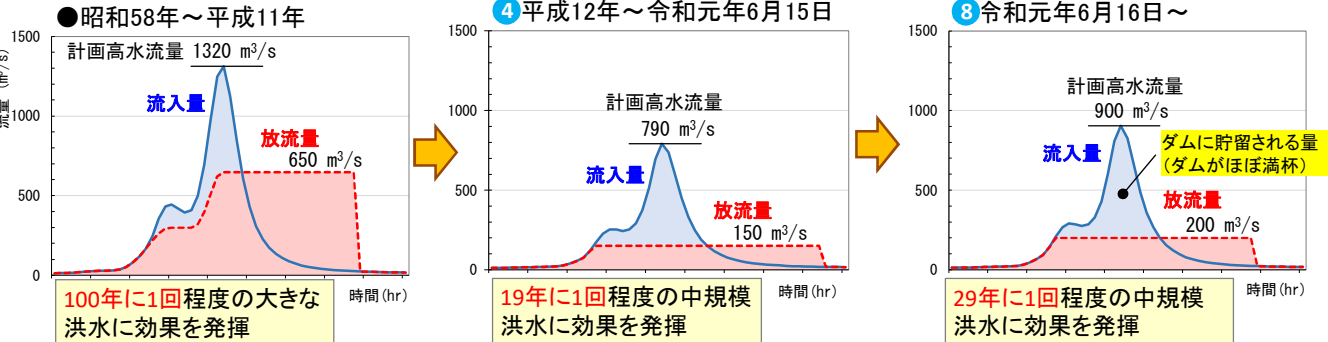
■一庫ダムのあゆみ



■洪水調節計画変更の経緯

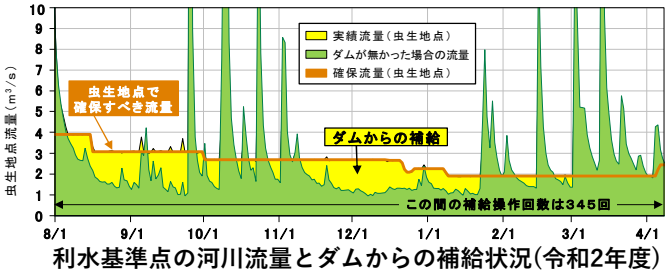


1983年の川西市多田桜木の浸水



■利水補給

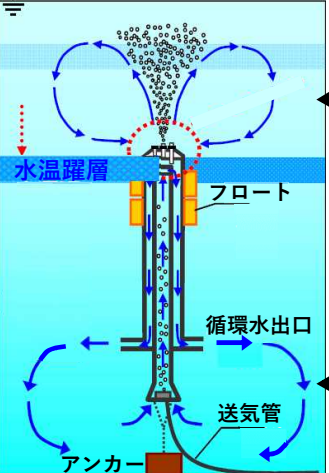
一庫ダムでは、既得・新規の水利用に対し、下流の利水基準点（虫生地点）にて新規利水と機能維持を加えた水量（確保流量）が満足されるよう下流河川に対して水の補給を行います。少雨が継続し河川流量が減少すると、一庫ダムから補給し続ける結果、貯水量が減少して渇水になることがあります。



■水質保全の取り組み

ダムに水を貯め始めた直後から、貯水池にはアオコなどの植物プランクトンの異常増殖や異臭味などの水質障害が毎年のように発生していました。その対策として、浅層曝気装置4基と深層曝気の余剰空気を有効利用し、浅層循環機能を付加した複合型曝気装置2基を設置し、2012年度より運用を行っています。それによりアオコの異常増殖は減少しましたが、代わりに2011年以降、ウキクサが繁茂するようになりました（2018年でほぼ収束）。

⑤ 水没式複合型曝気装置



○浅層循環機能

水深15～20m程度から出る気泡により貯水池内に水の循環を起こし、アオコなどの藻類の異常発生を抑制します。また、温かい水と冷たい水を混合させることで水温躍層を下げ、取水深を低下させた際の冷水放流の影響を緩和します。

○深層曝気機能

夏季の貯水池は、水が循環しにくく、底層の水はどんどん酸素が消費されて無酸素状態になります。このため、低層の水を装置下部から取り入れ、酸素を溶け込ませて再び底層に戻すことで、硫化水素や無機態リン等の発生を抑制し、ゲート放流時の硫化水素臭の発生を防ぎます。



■環境改善の取り組み

かつて、猪名川は近畿圏では有数のアユ友釣り場でした。しかし、ダムができたことで下流河川の流況が安定し、上流からの土砂供給が途絶えた影響で徐々に河床の岩盤がむき出しになり、河川環境が悪化しました。アユをはじめ、魚類の姿が見られなくなった状況に危機感を抱いた地元住民や猪名川漁業協同組合等と「アユの住む川」に戻そうという共通理念のもと、地域と一庫ダム管理所で協働して各種の環境改善の取り組みを行っています。

